

衛星追跡調査より判明したクロツラヘラサギの中継地

山田泰広¹・植田睦之²・尾崎清明³・米田重玄³・守分紀子⁴

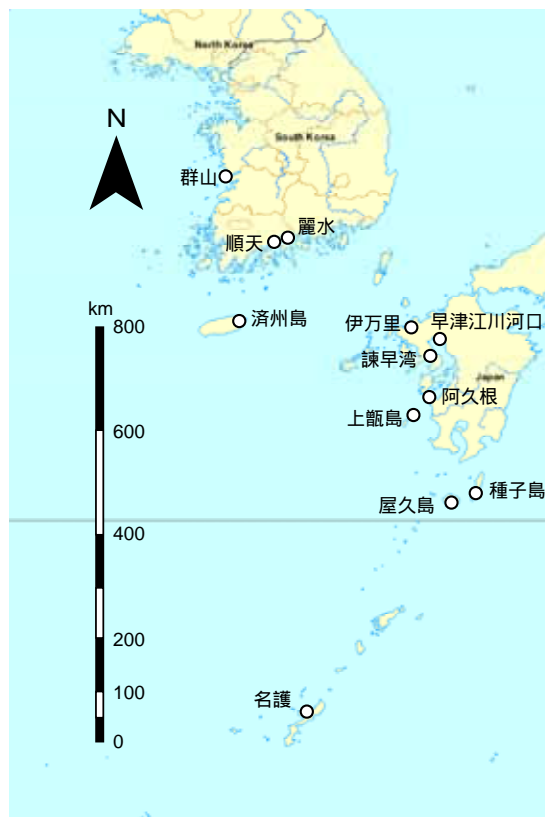
(1：日本野鳥の会，2：バードリサーチ，3：山階鳥類研究所，4：環境省自然環境局野生生物課)

クロツラヘラサギは、2004年度版IUCNレッドリストでEN(絶滅危惧種) および環境省のレッドデータブックでも絶滅危惧 A 類に指定されている鳥類で、東アジアにのみ分布し、全世界の個体数は約1400羽と推定されている。同種は朝鮮半島西岸および中国遼寧省の離島でのみ繁殖し、台湾・香港・中国東海岸・ベトナムおよび日本などで越冬することが知られている(Yu, 2005)。渡り経路については、日本野鳥の会により1998・99年に台湾と香港から衛星追跡が行なわれ、中国の東海岸沿いに北上することが解っているが(Ueta et al, 2002)、日本で越冬する個体については解っていない(鄭 他, 1999)。

そこで我々は環境省の請負事業により、2004・05年3月に沖縄県豊見城市与根遊水地にて計11個体捕獲し、内5個体に衛星送信機を装着し、アルゴシステムを用いた人工衛星による追跡調査を行った。また捕獲した全個体に金属足環と個体識別のできるカラーリングを装着し、その観察情報の収集も行ったので、それらの結果より得られた同種の渡りの中継地として重要な地点について報告する。

衛星追跡結果を要約すると、2004・05年の調査では、4羽は朝鮮半島の非武装地帯の繁殖地まで、1羽は途中まで追跡を行なうことができた。沖縄県豊見城市で越冬するクロツラヘラサギは、天候などの条件の良い場合は九州の有明海沿岸まで一気に北上し、その後朝鮮半島南岸および西岸の湿地を中継しながら、繁殖地である非武装地帯の離島まで、最短約5日間で約1,400kmを移動することが判明した。この際の重要な中継地としては、有明海沿岸の湿地、特に諫早湾や有明湾奥部の湿地と、朝鮮半島南岸の湿地および錦江河口湿地が利用されていた。また天候などの条件が悪い場合は、種子島や屋久島などが利用されており、沖縄と九州間の離島が、渡りに対して未熟な個体や、渡り期に天候などが悪化した場合の避難地として利用されている可能性が示唆された。

足環情報については、合計6羽についての情報が寄せられ、北帰行の時に有明海奥部の湿地を利用した個体が、越冬地に向かう際にも同じ場所を利用するのが確認された。また北帰行では済州島が利用された例もあり、九州から朝鮮半島間にある離島も、同種の中継地として利用されていることが確認された。



沖縄で越冬するクロツラヘラサギの中継地